

サービス推進室

サービス推進室では、医療事故・訴訟等に関する記事や医療安全に役立つ情報を、ニュース配信を行っている会社から提供を受けて、「医療安全情報」として提供しています。

異型輸血による医療事故が発生、事故調査委員会で原因を調査中

山梨県下の総合病院は1日、交通事故で同院に搬送された60代の男性に、血液型の異なる輸血をする医療事故があったと明らかにした。男性は搬送の約3時間後に死亡したが、この輸血が影響した可能性は「極めて低い」としている。同院によると、交通事故で出血性ショックの状態となった男性が搬送され、死亡後に異なる型の血液が輸血に含まれていることが判明したため、警察に届けた。男性はO型で大量に出血しており、総輸血量は5680ミリリットルと報告された。このうちB型の血液が、840ミリリットル含まれていたと判明した。病院側は「深刻な医療事故だ」と謝罪した。説明を受けた男性の遺族は「説明が不十分だ」と不満を述べた。病院側は「説明が不十分だ」と謝罪した。説明を受けた男性の遺族は「説明が不十分だ」と不満を述べた。

つながる可能性があることが分かってきており、
会は昨年、妊産婦の心のケアに関する新たなプロジェクトをまとめた。担当者の一人、相良洋子(さがら・ようこ)常務理事は「ケアが必要な人が自分から助けを求めてくることはほとんどなく、医療者側が見つけることが重要。手引と研修を広げることで、妊産婦の心の状態を共通の尺度で評価し、適切なケアにつなげていきたい」と話している。手引は無料配布を開始したが、好評で在庫がなくなったため、増刷し実費で販売する予定。問い合わせは日本産婦人科医会のホームページ(<http://www.jaog.or.jp>)から。